



百日咳

百日咳が6年ぶりに全国的に流行しています。愛媛県でも第16週の累計報告数は230例となっており、昨年1年間の累計報告数129例をすでに上回っています。百日咳は百日咳菌という細菌が飛沫感染することにより、けいれん性の激しい咳が長く続く呼吸器の感染症です。

特に生後6ヶ月未満の乳児は感染すると無呼吸や脳症などを併発して死に至ることがあるため注意が必要です。母親からの感染による百日咳の免疫は移行しないため、生後2ヶ月になったら早急に定期接種の5種混合ワクチン(百日咳ワクチンを含有)を接種するようにしてください。

百日咳に感染する人の大半は5～14歳の小児です。現在、百日咳ワクチンは5種混合ワクチンとして0歳児に3回、1歳～1歳半に1回の計4回の接種をしていますが、小学校就学前にはワクチンによる百日咳の免疫が低下してしまうために、学童期に発症すると考えられています。そのため、日本小児科学会は小学校入学前と11～12歳の時に3種混合ワクチンの追加接種を推奨しています。

誤嚥事故防止の食材整理表

厚労省の調査によると、2023年までの10年間に食べ物で窒息して亡くなった子どもの数は132人にのぼり、その8割は5歳以下の乳幼児だったそうです。子ども家庭庁が、教育・保育施設向けに注意点を整理した報告書を公表しました。(別紙)

【食事の与え方についての主な注意点】

- *全ての食材に窒息の可能性があることを意識する。
- *子どもが眠くなった時は食事を中断する。
- *食べることをせかさず、よく噛んで食べるようにする。
- *水分を取ることを促し、口に詰め込みすぎないようにする。
- *正しい姿勢で食べさせる。



4月の感染症情報

4月の感染症の流行の主体は感染性胃腸炎でした。主な症状は嘔吐で、原因ウイルスとしてノロウイルスが検出されています。

4月前半は、3月に引き続き、RSV感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症が多く見られましたが、後半には少なくなりました。

その他、溶連菌感染症の持続的な発生がありました。インフルエンザ、新型コロナは散発的に発生がみられる程度でした。



4月の利用状況

4月の利用延べ人数は78人、1日平均利用人数は3.9人でした。年齢別では、3歳児と4歳児が16人で最も多く、次いで1歳児の15人の順でした。疾患別では急性上気道炎が32人で最も多く、次に感染性胃腸炎20人、溶連菌感染症11人の順でした。

4月は寒暖差が大きかったせいか、一過性に発熱を伴う鼻風邪が多く見られました。進級、進学に伴い親子ともどもストレスがかかる時期です。くれぐれもご自愛ください。